

平成30年度鹿児島学習定着度調査結果（概要）

義務教育課

1 実施の状況

- 【学力調査】平成31年1月16日（水）・17日（木）に実施
- 「基礎・基本」に関する内容と「思考・表現」に関する内容の調査
 - ・ 小学校第5学年（国語，社会，算数，理科）
 - ・ 中学校第1・2学年（国語，社会，数学，理科，英語）
 - ※ 本年度の特徴
 - ・ 新学習指導要領を踏まえ，「思考・表現」に関する力の育成を更に推進するため，各教科を通じて，考えをまとめ表現する問題の質的な向上を図った。
 - ・ H31全国学力・学習状況調査で英語調査（中3対象）が行われるため，中2英語は，国から示されたモデル問題を参考に出題した。
- 【学習状況調査】
- 児童生徒の学習に関する意識や学び方などに関する調査（質問紙）
- 【学校質問紙調査】
- 学力向上の取組，校内研修の状況，家庭・地域との連携等に関する調査

2 学力調査の結果

（1）平均通過率 [%]

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小 5	全 体	60.1	72.9	72.8	54.6	
	基礎・基本	64.8	79.8	78.0	59.7	
	思考・表現	47.5	58.1	62.3	47.8	
中 1	全 体	61.9	62.2	59.7	59.2	73.3
	基礎・基本	63.2	68.8	68.0	62.2	76.5
	思考・表現	58.5	46.5	39.0	53.9	67.9
中 2	全 体	67.6	51.2	60.8	50.3	51.7
	基礎・基本	71.0	54.9	65.1	55.9	58.3
	思考・表現	58.4	42.6	54.1	39.0	41.4

（2）結果の概要

ア 主として，本調査の設定通過率を「基礎・基本」8割，「思考・表現」5割とし，調査問題を作成している。

「基礎・基本」に関する問題は，全ての教科で8割に達していない。また，「思考・表現」に関する問題についても，5割に達していない教科が約半数である。

イ 「基礎・基本」の問題に関しては，「単語の性質や働き」，「植物の基本的なつくり」などを問う問題などで，基礎的・基本的な内容が定着していない状況が見られた。

（例）中2国語：形容詞の活用 通過率37.0%
 小5理科：ヘチマのおしべとめしべ 通過率46.7%

ウ 「思考・表現」の問題に関しては，図，表，グラフ，資料等を関連付けたり，根拠を基にして自分の考えを記述したりする問題，習得した知識・技能を日常生活の場面で活用していく問題等について，通過率が低く，無解答率も高くなっている。

（例）小5社会：海外へ進出する企業（説文，グラフ） 通過率32.3% 無解答率 7.7%
 中2数学：文字式の活用（説明文章記述） 通過率33.1% 無解答率28.2%

エ 英語調査の中で，「聞く」「書く」技能の定着が図られていないため，通過率が低く，無解答率も高くなっている。

（例）中2英語：音を聞いて，自分の考えを書く 通過率17.7% 無解答率35.3%

3 児童生徒質問紙に対する回答の概要

学習に関する意識や学び方について、児童生徒の回答の主なものは以下のとおり。(数値は全て%)

(1) 家庭学習について

※ [] は、H29の数値

質問内容	小5	中1	中2
①家では、自分で学習している。 (家庭における宿題を含み、通塾での学習は除く)	84.0 [84.1]	78.6 [79.7]	73.8 [76.9]
②家で、宿題以外に自分で計画を立てて勉強をしている。	65.8 [-]	58.0 [-]	50.5 [-]

自分で計画を立てて家庭学習をしている割合が、学年が上がるにつれて減少している。

(2) 学校での学習活動について

※ [] は、H29の数値

質問内容	小5	中1	中2
③授業では、自分で考えたり、進んで活動に取り組んだりしている。	78.0 [78.0]	73.7 [72.5]	71.4 [71.3]
④授業では、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。	74.0 [72.0]	73.1 [71.4]	71.8 [71.1]
⑤授業で学んだことをほかの学習や生活に生かすことができる。	81.8 [82.1]	72.6 [72.3]	67.4 [68.4]

7割を超える児童生徒が主体的・積極的に学習に参加できていると感じている(③)。少しずつではあるが、授業改善が図られている状況が見られる(③, ④)。授業で学んだことを他教科等や生活に生かすことについては、学年が上がるにつれてその割合が低下している(⑤)。

4 学校質問紙に対する回答の概要

学力向上の取組、校内研修の状況、家庭・地域との連携等について、各校の回答の主なものは以下のとおり。(数値は全て%)

(1) 家庭学習の評価及び指導について

質問内容	小学校	中学校
①採点をしたり、コメントを記入したりする。	99.6	97.8
②正解や解法を説明する。	98.4	93.8
③児童生徒同士の答え合わせや相互に説明させている。	80.9	67.6

ほとんどの学校で、児童生徒が提出した宿題の見届けができています(①, ②, ③)。

(2) 学校での学習活動について

※ () は児童生徒による回答の数値

質問内容	小学校	中学校
④授業のめあて(学習目標)を立てている。	99.8 (83.8)	99.6 (83.5)
⑤授業の始めに、学習の見通しをもたせている。	99.2 (74.9)	93.3 (70.6)
⑥学習内容を振り返る活動を行っている。	96.3 (74.4)	91.1 (64.1)

学校としては、めあて、学習の見通し、振り返りを意識した授業を行っているが、児童生徒による回答の状況を踏まえれば、授業を行う教員の意図が十分児童生徒に伝わっていないことがうかがえる。

(3) 授業以外での補充指導や個別指導について

質問内容	小学校	中学校
⑦年間を通して、時間を設定して定期的実施している。	85.6	74.7
⑧定期テストの前後などの時期に実施している。	65.8	79.0
⑨個別に長期休業中に実施している。	46.7	62.7

各学校において、補充指導や個別指導は一定程度実施されているが、学力調査の結果を踏まえれば、学習した内容が定着するまで繰り返し指導するとともに、さらに習熟の程度に応じた指導を工夫する必要がある。

(4) かがしま学力向上支援Webシステム単元・領域別評価問題の活用状況について

質 問 内 容	小学校	中学校
⑩授業の学習課題や発展問題として活用した。	95.0	90.7
⑪定期テスト等の問題として活用した。	42.3	79.5
⑫自宅学習の課題として活用した。	91.1	83.6
⑬長期休業中の課題として活用した。	79.1	84.9

授業の中で学習した内容の深化及び補充のために、定期考査、単元テストの問題への活用、家庭学習の課題への活用が、今後一層必要である。

5 県教委の対応

- (1) 各市町村教育委員会や各学校に対して、2月に鹿児島学習定着度調査結果の速報値を伝え、
①調査結果を基に全県的な傾向との比較・分析等を行い、各学校の課題を明確にすること、そ
上で、②年度内に補充指導や個別指導等を徹底したり、次年度の年間指導計画を作成したりす
ることを通して、課題の克服に向けた取組が充実するよう指導している。
- (2) 3学期、各市町村教育委員会及び各学校を個別に訪問し、補充指導や個別指導の充実、演習
問題の実施等について指導してきている。
- (3) 英語調査の中で、「聞く」「読む」「書く」技能の確実な定着を図るため、鹿児島学習定着
度調査で明らかになった課題を詳細に分析するとともに、英語の能力の確実な定着を図るため、
成果のあった事例を紹介したり、演習問題等に取り組みせたりして、課題の克服に向けた取組
を一層充実させる。